

## 橋本市民病院を受診された患者さまへ

当院では、下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に研究等への参加をお願いすることがありますので、ご協力よろしく申し上げます。

研究課題名	成人片麻痺者における肩甲骨の可動性がリーチングの姿勢制御に与える影響
研究担当者	橋本市民病院 診療技術部 リハビリテーション科 佐藤 将人
目的・概要	<p>脳卒中後遺症による成人片麻痺者の作業療法において、姿勢制御や上肢・手の機能を促進する上で、肩甲骨に介入した際、姿勢筋緊張や運動パターンが変化する事を臨床的に経験しています。姿勢制御との関連において、肩甲骨の可動性は、動的バランスに影響を及ぼし、具体的には随意的な前後方向への運動時に左右の重心移動が距離と負の相関を認められています。肩甲骨の運動性は、上部体幹の運動性と相関を認められていますが、先行研究はすべて健常成人を対象としたものであり、姿勢制御系に障害を抱える脳卒中後遺症者を対象とした報告はありません。</p> <p>今回、脳卒中後遺症による成人片麻痺者を対象に肩甲骨の可動性と運動性を促通する事によって、上肢・手の機能の基礎となるリーチングの姿勢制御に与える影響を検証する事を目的とします。</p> <p>添付資料 研究計画書</p>
研究対象 実施機関 実施場所等	<p>対象：脳外科病棟に入院中の脳卒中後遺症による成人片麻痺者20名 対象者の除外基準：既存の合併症によるコミュニケーションに制約がある事、課題理解に影響与える認知機能傷害を認めない事（Mini Mental State Examination; MMSEが20点以下は除外）、重心動揺測定機器の体重制限あり（136kg以下）。</p> <p>研究期間：2020年4月から2022年4月までの2年間予定 実施場所：リハビリテーション室 リハビリ算定時間内に実施し、肩甲骨の治療とその介入効果を評価します。（他の介入効果の評価は、通常業務内で行っております。）</p>
研究期間	2020年4月16日～2022年4月30日
研究等における倫理的配慮、人権擁護及び個人情報の保護等	<p>通常の臨床業務と同様の個人情報保護について、十分に配慮致します。</p> <p>今回の測定データはすべて、数値で得られます。そのため、その数値だけでは何を示すものなのか不明であるようにしており、匿名化します。また、得られたデータはすぐさまパソコンとは別のハードディスクに保存し、コンピュータ内にはデータが残らないようにします。ハードディスクに保存したデータは、別の自己のパソコンにてデータ分析します。分析したデータはハードディスク内に保存し、リハビリ室スタッフルームの鍵がかかるロッカーに保管します。</p> <p>また、研究結果が公にされる場合（論文）、対象者の個人情報の秘密性はすべて保護します。</p>
備考	